

第 16 回国際哲学会議で、本学の教授 2 名が招待講演

澤井 義次

去る 11 月 18 日～20 日の 3 日間、第 16 回国際哲学会議「パンデミック以後の人間世界を考える」(Thinking the human world after the Pandemic) が、本学の姉妹校の一つであるスペインのサンティアゴ・デ・コンポステラ大学において、オンラインで開催された。

この国際会議には、本学から澤井義次名誉教授（おやさと研究所・嘱託研究員）と森下三郎教授（国際学部）の 2 名が招かれ、11 月 19 日の夕方、それぞれ英語で招待講演をおこなった。講演テーマとおもな内容は、下記のとおりである。

澤井義次「コロナ後の世界における宗教意識に関する省察」(“Reflections on Religious Consciousness in the Post-COVID World”)

新型コロナの感染拡大が、現代世界に生きる私たち人間にとって何を意味しているのか、また、生きることのより深い意味とは何かについて、宗教学の視座から論じた。

森下三郎「強靱な身体、強い心—天理教の身体観—」(“Strong Bodies, Strong Minds: A Tenrikyo Perspective of the Body”)

天理教における「かしのもの・かりもの」の教理をめぐって、心と身体に関わり、さらに、心のほこりを払って、「人をたすける心」になることの現代的意義を論じた。

第 344 回研究報告会 (11 月 22 日)

「教祖のお言葉を求めて」

北村 幸喜 (天理教教会本部講習課)

教祖のお言葉は、三原典や『稿本天理教教祖伝』、『稿本天理教教祖伝逸話篇』において相当数を拝することができる。ところが、もっと教祖のお心を求めたい、少しでも教祖を傍に感じたいという信仰者としての欲求が、より多くの逸話や口伝を求めてやまない。教祖のお言葉は、もっとも高いプライオリティを持つ。だからこそ、口伝や逸話を交えた教話が与える影響力はとても大きい。

しかし、講話や SNS で教祖のお言葉として紹介されるものの中には、調べてみると、全く信憑性のない文献からの引用もあれば、全然違う歴史的偉人や他宗の教祖（開祖）の言葉だと分かる例もある。こと教義にかかわる教祖の逸話であるから、修飾や虚構が看過されてはならない。それだけに、どこまでも史料に対する厳密な検証、精査、校訂への慎重さが要求される。

そこで、教祖のお言葉として語られたものの引用元が一目でわかるデータベース化をしていくことが必要なのではないだろうか。信憑性のあるなしに関わらず、その全てをデータベース化しておけば、出典となった文献の性格を判断基準にして、教祖のお言葉としての正確さを検討することができる。さらに、引用元にアクセスし、その前後の記述から背景事情を把握する

ことも逸話を読み解く上で大切である。

戦後から続く復元の道程で、史実を検討する上から資料を集めたり、信憑性の高い逸話がまとめられたりした歴史はあるものの、文献にある教祖のお言葉の全てを集めて整理したものは見当たらない。原典のお言葉を味わい、実践につなげていくことが何にもまして大切であるが、教祖の言行がひとつも歴史の中に埋もれてしまわないように蒐集、整理、保管しておくことも天理教学の歩みの中で急務であると思う。

第 46 回オーストラリア宗教学会年次大会にて発表

堀内 みどり

標記大会が、ANU (Australian National University) が主催し、12 月 9 日～10 日にかけてオンラインにて開催 2 人の基調講演があり、全体では 50 余の発表があった。大会のテーマは「希望 (Hope)」。また、オーストラリアの主要各地で、会員の懇親会の場が設けられた。

堀内に参加したセッションは、「アジアとオーストラリアの宗教と希望」をテーマとして、4 人の発題があった。堀内は、オーストラリアにおける天理教の様子を紹介し、天理教の活動が、現地の人々及び現地の信仰者にとって、希望となっているのかどうかについて、伝道の歴史的経緯を辿りながら考察した。とくに天理教青年会の果たすべき役割の今後の展開が期待されるのではないかと結んだ。

他の発題では、ニューエイジ運動におけるスピリチュアリティ、ラマダーンという生きた宗教的アプローチ、ベトナムの道母 (Dao Mau) 信仰が取り上げられた。

## 『グローバル天理』 メール配信のご案内

当研究所では、『グローバル天理』を、関係各所やご希望の方々へ配布・配送しておりますが、PDF でのメール配信を開始しました。

つきましては、『グローバル天理』(PDF 版) のメールでの受け取りを希望される場合、および紙版の『グローバル天理』の配布・配送を中止される場合は、下記の当研究所メールアドレスへご連絡ください。

なお、当誌はおやさと研究所のホームページで公開しており、そちらでもご覧いただくことも可能ですので、併せてご案内いたします。

皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

連絡先:

天理大学 おやさと研究所『グローバル天理』編集部

E-Mail: glocal@sta.tenri-u.ac.jp

URL: <https://www.tenri-u.ac.jp/oyaken/index.html>